

小児で広がる COVID-19 感染、対策は？

2021/09/08 [谷口 恭\(太融寺町谷口医院\)](#)



春には「コロナワクチンは打ちません」と言っていた患者から、「やっぱり打つことにしました」という言葉を聞く機会が増えてきた。特に、当院をかかりつけにしている医療従事者は、今ではほぼ全員が既に完了している。ある看護学生は担当の先生から何度も「早く打つように」との電話がかかってきて決心したそうだ。

現在も、毎日何人もの患者から「ワクチンどうしたらいいですか？」という質問を受け、当院未受診の人からもワクチンの是非についてのメール問い合わせが届く。新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)に限らず、僕はいつも「最終的には自分で決めてください」と伝え「ワクチンは理解してから接種するべきだ」と言い続けている。そして、ワクチンのベネフィットについて説明するときに僕が必ず尋ねるのが「そのワクチンは誰のために打つのですか？」というものだ。例えば、接種を決心した医療従事者は「患者を守るため」と考える者が多い。

風疹ワクチンについて中年男性から相談されたときには、「あなたが風疹にかかってもたいいは軽症で済みますが、もしも妊娠している女性に感染させてしまったら大変なことになるかもしれません。国が無償でワクチンを打たせてくれるのは、国があなたのことを思っているわけではなくて未来の子どもを守るためなのです」と答えている。

最初は「ほんまに打たなあかんのですか？」と、できれば打ちたくないと考えている中年男性も、こういう説明をすると「妊婦さんを守るためなら喜んで協力します！」と、がぜん積極的になるから面白い。他人に迷惑をかけたくない、とまず考えるのが日本人の国民性なのだろうか。感染させることが許されないという「罪」の意識から来るのか、あるいは、自分がワクチンを打って他者を守らねばという「献身」や「利他」の精神から来るのかは分からないが、風疹ワクチン接種を決めたこの中年男性のように、自分よりもむしろ他者のために受けるワクチンのことを僕は「利他的ワクチン」と呼んでいる。風疹の他には、健常者のインフルエンザワクチンも利他的ワクチンに相当すると思っている。

そして、SARS-CoV-2 のワクチンも若い世代にとっては利他的ワクチンの一種だった。6 月までは僕は若い患者から質問を受けたときは「あなたがコロナに感染してもたいしたことはないでしょう。ですが、もしも高齢者や持病を抱えた人にうつすと大変なことになるかもしれません。そういった人と接することはないかどうか考えてみてください」と答えていた。すると、高齢者と住んでいるという若者や、高齢者と接する仕事をしている人たちはたいてい「接種します」という結論になる。他方、高齢者とは関わらないという人たちからは「今は見合わせます」と言われることも多い。

ワクチンの適応外となる 11 歳以下をどう守る

だが、既に局面は転換した。7 月上旬、インドネシアでデルタ株が流行し大勢の小児が犠牲になった。[New York Times の報道](#)によれば、7 月のある 1 週間で、小児の死亡は 150 人以上で、その半数が 5 歳未満だという。これまで 18 歳未満が 800 人死亡しており、その大多数が 7 月以降に死亡している。

米国でも深刻になってきている。[Washington Post](#) に寄稿した米国の小児科医によると、全米ではこれまで 300 人以上の小児が新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) で死亡している。さらに、後遺症も深刻なようで、発症時には入院が不要だった軽症例も含めて、10% の子どもたちに数カ月間にわたる後遺症が出ているという。

小児の感染は学校での感染よりも家庭内感染の方が多いという指摘がある。実際、上述した New York Times の記事では、インドネシアでは新生児が生まれると近隣の住民や親せきが家を訪れる習慣があり、そのために小児がリスクにさらされているようだ。

だが、学校のリスクも小さくはないのでは……、と考えていると、米国で驚くべきクラスター発生のニュースが飛び込んできた。[Washington Post の記事](#)によると、1 人の小学校の教師が教室で 24 人の生徒の半分に SARS-CoV-2 を感染させたというのだ。記事に掲載された図によれば、教壇にはエアフィルターが設置されていて、生徒の机は前後左右とも 6 フィートの間隔が取られている。しかし、最前列の 5 人の生徒は全員が感染、最後列の生徒も 4 人のうち 2 人が感染したのだ。さらに他のクラスや両親・兄弟にも広がったようだ。

カリフォルニア州のこの小学校では屋内ではマスクが義務付けられている。当然、教師もマスクを着用し授業をするわけだが、その教師は生徒たちに物語を読み聞かせる「story time」の時間を“例外”としたようだ。教師はワクチンを接種しておらず、軽度の感冒症状が出ていたがそれをアレルギー症状と判断し、自身の症状が COVID-19 だとは全く思わなかったらしい。

こういった出来事の影響を受けてなのか、[Washington Post の別の記事](#)によると、米国の小児科医の元には、12 歳未満の子どもへのワクチン接種を望む保護者からの電話が鳴りやまないようだ。現在、米国では SARS-CoV-2 のワクチンは 12 歳以上にしか承認されていない。しかし、何とか例外的な扱いをしてくれる医師はいないかと探す親が増えており、記事によれば、ブリティッシュコロンビア州やアルバータ州を含む多くのカナダの州は 2009 年に生まれた 11 歳の小児にワクチンを開始したようで、これが米国の親たちに影響を与えているようだ。

Washington Post によると、米国では当初 5~11 歳へのワクチン接種が初秋には開始されるのではないかと期待されていたのだが、米国食品医薬品局 (FDA) は 7 月下旬に治験参加者を倍にすることを要請したことで大きく遅れるのが必至となった。FDA は、ワクチン接種後に特に若い男性に生じている心筋炎や心膜炎のリスクを慎重に検討すべきだと考えているとのことだ。

Washington Post が報じた小学校でのクラスターが興味深いのは、感染源となった教師が非難されているような記述がないことだ。また、米国ではマスクに反対する声も多いと聞く。「マスク戦争 (Mask Wars)」なる言葉もあり、8 月にはテキサスの学校で、生徒の保護者の 1 人が教師のマスクをはぎ取ったことを [Washington Post の別の記事](#) が報道している。この記事には、8 月、カリフォルニアのある学校でマスクに反対する生徒の保護者が、マスク着用を義務付ける学校の校長を殴った事件も紹介されている。

さて、日本では今後どのようになるだろうか。[日本小児科学会のサイト](#)によると、既に日本国内でも 20 歳未満の感染者の報告数は 3000 人を超え、増加傾向にあり入院例も少なくない。さらに、厚生労働省によると、9 月 1 日現在で、20 歳未満の感染者が累計約 21 万人で、そのうち 12 万人以上が、7 月以降に感染している ([新型コロナウイルス感染症の国内発生動向\[速報値\]](#))。もしも日本の小学校で、教師のマスクなしの読み聞かせでクラスターが発生すれば大変なことになるのではないかと。保護者からの抗議が殺到し、学校は謝罪会見を開き、そして世論は、マスクを外したことに加えてワクチン未接種であった教師に非難を浴びせるだろう。

既に COVID-19 は高齢者と基礎疾患のある者だけにとつての脅威ではないと考えるべきではないか。ワクチンに関して言えば、「高齢者を守るため」だけでなく「未来ある子どもたちや自分を守るために」と考え直した方がいいのかもしれない。なお、米国疾病対策センター (CDC) の試算によれば、小学校でマスク着用や定期検査が行われなかった場合、3 カ月以内に 75% もの生徒が SARS-CoV-2 に感染するとのことだ。

FDA がいずれ 5~11 歳へのワクチンを承認することを検討しているのに対し、英国ではワクチン諮問委員会が、12~15 歳の健康な小児へのワクチン承認を拒否していることが報道された ([BBC の関連サイト](#))。当然 12 歳未満も承認されない。仮に、日本では米国が検討しているように 5~11 歳への接種が認められたとしても、では 5 歳未満はどうするんだという問題もある。JAMA

Pediatrics 8 月 16 日号に掲載された論文「[Association of Age and Pediatric Household Transmission of SARS-CoV-2 Infection](#)」は、10 歳代前半よりも乳児と幼児が SARS-CoV-2 を拡散させやすいことを指摘している。

ではどうすればいいのか。考えられる最も現実的な解決策は「周囲の大人たちができるだけワクチンを打つ」に他ならない。大勢の子どもたちと接する教師はその筆頭となるだろう。新しいワクチンということもあり、(米国のように)一定数の hesitator はいるだろうが、デルタ株では若年成人の重症例も報告されている。そのため、大人や 12 歳以上の小児は自分自身を守るために加え、11 歳以下の小児への感染拡大を防ぐためにも、ワクチン接種は有用と認識を改める必要があるだろう。